

別紙A

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立内部東小学校

校長 前田 賢一

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

この運営協議会は、内部東小学校の教育活動等に対して、地域全体で子どもを育てる体制をつくり、子どもたちの学習活動・環境の充実を図るとともに、家庭・地域の教育力を高め、さらには、地域のコミュニティの活性化を図ることを目的としています。

保護者や地域の声を反映した教育活動を進めるとともに、学校とともに子どもを育てる中心的な役割を果たします。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

全学年で地域住民・団体と連携した活動が行われた。

1年生 サツマイモづくり 焼き芋 竹とんぼあそび

2年生 リースづくり リース材料集め

3年生 ホタルの観察

4年生 つつじの剪定 トンボの飼育 防災体験 蝶を呼び集めよう

5年生 米作り(田植え、稲刈り、脱穀、米袋づくりなど)

6年生 里山保全活動 采女城址歴史探訪

本年度は開催できなかった昔の暮らしや戦争の頃の話など地域住民の語り部さんによる講和も例年行われている。



(写真は3年生ホタルの観察・内部地区のホタルの住処についての話)

(写真は4年生ヤゴの観察の様子)



「学童見守り隊」による登下校の見守り活動、「はげまし隊」による樹木の剪定活動や、タイヤ遊具のペンキ塗りなどの遊具の安全整備、グリーンボランティア「森林づくり三重」を中心としたPTA 保護者、児童、職員による学習の森整備作業を行った。また、クラブ活動等にも地域の方に指導していただくなどコミュニティスクール委員が中心となって地域人材を活用した取り組みが広がってきている。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

年間5回のコミュニティスクール運営協議会を開催し、さまざまな角度からの意見をいただき、教育活動に反映することができた。(第一回は書面決議)第2回目には内部小・内部中と三校合同での会議を開催した。交通安全や内部東小学校の学習の森の活用、地域行事の連携など内部地区の子どもは内部地区全体で育てていこうという共通の認識を持つことができた。

会議では、様々な団体の代表から委員が出ていることを活かした意見交換ができた。トンボやホタルの学習の取り組みや学習の森の整備に関することが話題に上がると、保護者代表からは児童たちの学びの様子やどんなところに興味があるのかなどの具体的な意見が返された。頂いたご意見をもとに次への活動の指針とすることができた。

また、登下校の児童の様子、放課後の遊び方やスポーツ活動での様子を出し合うことで子どもたちの良さに気づき、自粛生活が長引くことの童や家庭への弊害についても出し合うことで学校での指導に活かすことができた。

3 今後に向けて

運営協議会では、学校教育活動に対して様々な意見をいただいた。

授業参観も水泳指導、運動会、縄跳び運動など時季に合わせて設定したが、感染症対策のために十分に参観していただくことはできなかった。そのよう

な中においても、委員は学校外の児童や保護者、地域住民の思いや様子をよく、意見をたくさん出していただき、学校、コミュニティスクールに参加している団体の活動が改善できる機会となった。来年度も継続してコミュニティスクールの活動を通じて、教育活動をよりよくしていきたい。